



## 勾玉（まがたま）ペンダントをつくってみましょう （やわらかい滑石と紙やすりであなたにもつくれます）

勾玉（まがたま）って何ですか？

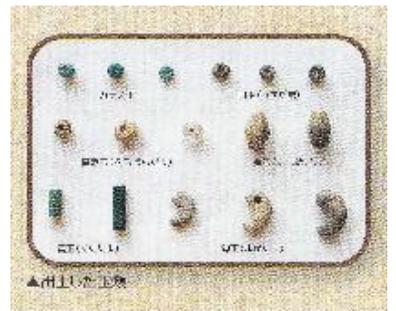
勾玉は、縄文時代から古墳時代まで使われた装身具で、カタカナの「フ」や数字の「9」のような形をした、穴のあいた飾り用の玉です。猛獣の牙に穴を開けた装飾品から生まれたという説や胎児の姿を表したという説もあります。材料は、ヒスイやメノウのような硬い石が用いられていましたが、古墳時代になり大量に作られるようになると、滑石（かっせき）のように軟らかい石が使われるようになりました。

昼飯大塚古墳ではこれまでの調査で数多くの出土遺物が確認されています。そのなかで、とりわけ多く出土しているのが勾玉をはじめとした玉類（たまるい）です。

後円部頂からは管玉（十二） ガラス玉（十四） 算盤玉（六） 勾玉（四十七） 棗玉（二） 白玉（百一） 丸玉（一）が採取されました。また、石室内は未調査ですが、盗掘坑埋土および石室内流土から、盗掘時に攪乱された遺物の一部が出土し、管玉（四十二） ガラス玉（三百二十四） 勾玉（百八十三） 算盤玉（七十） 棗玉（百五十三） 白玉（三千四百五十三）が採取されました。

採取された玉類は全部で四千四百九個、そのうち勾玉は二百三十個です。

### 勾玉づくりに必要なものは？



- ① 滑石 ノートがない時代に石版に字を書いたり、戦後まもなくの頃、子どもたちが道路に線や丸を書くのに使ったりした石墨と同じもので加工しやすい石です。
- ② 紙やすり 石を削ったり磨いたりするのに使い、粗め、細かめ、水やすりの三種類を使い分けれます。
- ③ 紐（ひも） 勾玉の穴に通します。直径二ミリメートル程度の組みひもが適しています。長さは一メートルあれば十分です。

そのほかに、スケッチをする鉛筆、穴を開けるきり、粉が飛び散るので、下に敷く新聞紙を用意しましょう。

色をつける蛍光ペンやビーズを使ってより個性的な勾玉にすることもできます。

どうやって作るのですか？

- 一 石に鉛筆でスケッチをしましょう  
決まった形はありませんが、大きく描き、けするところを少なくしたほうが、早く形が整い、石が割れる危険も少なくなります。
- 二 石の形を整えましょう  
粗めの紙やすりの上に石の角をあてて、消しゴムのようにぐいぐいとすり付けていたらいいところをけすります。
- 三 くぼんだところをえぐりましょう  
鉛筆にやすりをまきつけておなかのあたりをけすります。
- 四 穴を開けましょう  
力を入れすぎて石を割らないよう慎重にきりで穴を開けます。二人で協力するとうまくできます。
- 五 丸みをつけましょう  
大まかな形ができたなら、細かめのやすりで角をけすり丸みをつけながら表面を整えます。
- 四 石を磨きましょう  
水やすりを水にぬらし、なでるようにな、さするようになりに石の表面を磨きます。磨けば磨くほどつやが出てきます。勾玉に色をつけたい人は蛍光ペンで彩色してから磨くのがいいです。
- 五 紐を通しましょう  
穴に紐を通して端を結びます。丸玉のようなビーズも一緒に通すと豪華な勾玉ペンダントの完成です。